

(マタイ 25:1-30; ヘブル 10:19-25; 1ヨハネ 3:1-3)

人が一生の間に待つ時間は3~5年だそうです。店で接客を待つ、電話口で待つ、赤信号で待つ、電車やバスの到着を待つ、診察の順番を待つなど、全ての待ち時間を合計すると5年にもなるそうです。ところで、クリスチャンはある意味、一生ずっと待っていると言えます。神様がご自分の民に用意してくださっているワクワクするような素晴らしい未来という希望が現実になるのを、私たちは待ち続けています。よみがえり、朽ちることなく、御霊に完全に従う新しい体で、完全な新しい創造の地に住むという栄光に満ちた希望です。そこは、イエス・キリストのために創造され、またイエス・キリストによって治められ、一つとされる、義と平安と安らぎの地です。前回の合同礼拝で学んだように、私たちの希望は、イエス様がこの地上の裁き主として再び来られる時に、ついに成就します。その時、この世界は音を立てて消え、新しい天と地が訪れます。

クリスチャンである私たちには、信じられないような素晴らしい永遠の未来が待っています。しかし、私たちはその未来のために何を準備すべきでしょうか。確かな未来が現実となる時のために、今私たちにできることはあるでしょうか。イエス様の再臨をどう待てばよいのでしょうか。

これらの問いの答えを見出す助けとなるのは、イエス様が話された二つのたとえ話です。一つは、花婿を出迎える賢い娘と愚かな娘の話(マタイ 25:1-13)、もう一つは、タラントの話(マタイ 25:14-30)です。これらのたとえ話は、突然の出来事に対する二通りの人の反応に焦点を当てています。突然の出来事のためによく備えて待っていた人と、そうでない人です。一見、たとえ話一つだけで言いたいことは十分伝わるように見えます。しかし、イエス様はいつも言葉を注意深く選ばれ、この二つのたとえ話にも大切な違いがいくつかあるのです。特に、一つ目の話では、二通りの娘は「賢い」者と「愚かな」者、二つ目の話では、二通りのしもべは「悪いなまけ者」と「良い忠実な」者と記されています。この言葉の選択は、考察する価値があります。それは、イエス様の再臨と、新しい創造の訪れを正しく待つとはどういうことかの核心部分に私たちを導いてくれるからです。

1. 賢く待つ

3月の合同礼拝でもふれましたが、賢い娘たちは花婿が遅れて到着するかもしれないと考え、ともしびのための油を余分に持って行きました。彼女たちは先を読み、それに沿って計画を立てました。イエス様の再臨を待つ時も同じです。イエス様の賢い信徒は先を見て、永遠に相続するものが、新しい創造のうちにあることを理解し、それに沿って計画を立て、優先順位を決めます。マタイの福音書の別の箇所でも、イエス様はこれを「神の国をまず第一に求めなさい」と言い表しておられます。(マタイ 6:33) 賢く待つことは、心を訓練し、考えを集中させることです。そうすることで適切な行動が取れるようになるためです。そして、賢く待つことは、聖書を読み、私たちの思いをキリストのみこころに沿わせることです。また、この世の先を見、次に来る世界に目を向けることです。これは、私たちの生活のあらゆる面に影響を与えます。夫、妻にどう接するか、子供をどう育てるか、友達をどう選ぶか、どのように自分の考えを評価し、結論を出すか、お金をどう使うか、職場でどのように振る舞うか、自由な時間をどう過ごすかなどです。このようなあらゆる場面で私たちは「永遠と新しい創造にある私の希望は、私の行動にどう影響を与えるか」を自問しなければなりません。私たちの行動全てにおいて、このように臨むかどうか、キリストの再臨を賢く待つか、愚かに待つかの差となります。

2. 忠実に待つ

イエス様が話されたしもべとタラントのたとえ話は、忠実かなまけ者かという行動の質に焦点を当てています。「なまけ者」という言葉は、実によく言い表しています。動物園でナマケモノを見たことがある人は、動きがゆっくりで、枝の上を大儀そうにのそのそと歩く哺乳類の動物を思い浮かべられるでしょう。誰もナマケモノのようだとは言われたくないと思います。イエス様のたとえ話の中で、なまけ者のしもべは、主人にもうけをもたらすために預かった金で商売をした忠実な二人のしもべとは対照的です。これらの忠実なしもべたちは勤勉で、想像力があり、役に立つ仕え方を表しています。これこそが、キリストの再来を待つ、私たちしもべのあるべき姿です。私たちの主人の到着を待ち、実りが多く、効果的に

生きるように努めます。だからパウロも、「ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。」と書いています。(ピリピ 3:13-14)

実際に私たちがどう生きていくかについては、新約聖書にたくさんの記述があります。ヘブル 10 章(19-25 節)もこの点で助けとなります。この箇所は、私たちの罪のために完全ないけにえを捧げて下さり、私たちが完全なものにしてくださった完全な大祭司—イエス・キリストにより、私たちは神様の御前に大胆に進み出ることができるのだと思わせてくれています。「信仰の全き確信」があれば、次の二つの行動が生じるでしょう。つまり、私たちはイエス様に忠実であるように励み、他の人もそうするように助けようと努力します。

(a) イエス様に忠実であり続ける

ヘブル人への手紙の著者は、「約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。」(23 節)と読者に強く勧めています。言い換えれば、神様が私たちに忠実でいてくださるという事実によって、私たちも神様に対してさらに忠実であるように駆り立てられるべきだということです。神様に失望させられることは決してありませんから、その神様から離れていくのはおかしいです。ですから、イエス様をあきらめるという選択肢はありません。同様に、イエス様にたいして怠惰である、無関心である、不従順であるという選択肢もないのです。これらの一つでも選択することは、リスクが高すぎます。私たちの目指すところは、新しい創造において、キリストと共に生き、治めることです。(2 テモテ 2:11-13)

米国海兵隊のモットーは、「常に忠実に」です。何と力強いスローガンでしょう。常に忠実に。時々でもなく、大体でもなく、ほとんどでもありません。常に忠実にです。軽減事由も、免責条項も、言い訳もなしです。都合が悪くても、関係ありません。それが個人の幸せにつながるかも関係ありません。これは、クリスチャンである私たちにとっても素晴らしいスローガンだと思います。私たちは、常に主に忠実です。状況が良くても悪くてもイエス様に従います。困難な場合も、耐え忍び、決してあきらめません。なぜ前に進み続けられないのでしょうか。イエス様は新しい天と地に私たちの居場所を備えてくださっています。そして、その偉大な最後の日に私たちが主から聞きたいのは「よくやった。良い忠実なしもべだ。」(マタイ 25:23)という言葉です。

(b) 人がイエス様に忠実であり続けるように助ける

ヘブル人への手紙の著者は、私たち自身がイエス様に忠実であり続けるだけでなく、周りの人もそうするように助けなさいと勧めています。10 章で彼は「互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。…一緒に集まることをやめたりしないで、かえって励まし合」いましょうと記しています。(24-25 節) 「かの日が近づいている」中で、これらは全て私たちがすべき大切なことです。(25 節) 互いに励まし合ってイエス様に一心に仕えることは、私たちが新しい創造を待つ上で、実り多く、忠実なしもべであることそのものです。

2 月の合同礼拝で神様がキリストのもとに全てを一致させようという目的を持っておられることを学びました。それによって、他のクリスチャンとの結束は、確かなものとされます。この将来の希望をキリストにある兄弟姉妹と共有しているので、私たちは今そう生きます。同じ希望—同じ永遠の運命—を持っているというのは、互いに一致を保ちたいと強く思い、互いを助ける役割をしっかりとするということです。(エペソ 4:1-6) これはクリスチャンの交わりの重要性を高め、一緒に何をするかという焦点を合わせます。クリスチャンの交わりは、一緒にお茶を飲んだり、人をもてなしたり、互いに親しくする以上のものです。真の、実り多いクリスチャンの交わりは、互いの神様との関係の強化を求めることで、キリストをその交わりの中心に保ちます。それは、キリストについて話したり、みことばを一緒に読んだり、祈ったりすることが含まれます。深く互いをケアしあい、特に誰も神様から離れることが無いように気を配ります。困難な状況にある時、真のクリスチャンの交わりは、私たちがイエス様から離れないように助けられます。

(c) 人がイエス様に忠実になるように助ける

キリストの忠実なしもべは、手遅れになる前に、未信者がイエス・キリストに忠実になるように、悔い改めて信じるように彼らに促します。前回の合同礼拝で触れたように、イエス様がまだ来られないのは、神様の忍耐ゆえです。神様は「ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」(2ペテロ 3:9)

旧約聖書で、イザヤは神様のユダに対する罰を、「異なった」みわざ、「比類がない」働きと表現しました。つまり、罰することは神様のご性質とは異なるということです。実に神様は「あわれみ深く、情け深い。怒るのにおそく、恵み豊か」です。神様は人々が救われることを望んでおられます。そのために、愛するひとり子さえもを犠牲にされました。ですからキリストの忠実なしもべがどうするべきかは明らかです。イエス様がまだ再臨されない唯一の理由が、より多くの人の悔い改めであるのなら、待っている私たちが何をすべきかは容易に想像できます。より多くの人が悔い改めるために、私たちはイエス・キリストの福音を人々に伝えなければなりません。

3. 敬虔に待つ

タラントのたとえ話の中で、イエス様はもうけを出したしもべたちを「忠実」というだけでなく「良い」しもべだと言われました。それに対し、なまけ者のしもべを「悪い」と言われました。これらは、イエス様の再臨を待つ際、個人の敬虔さも関わりがあることを示しています。テトスに宛てたパウロの手紙の中でもこれが記されています。パウロは信者たちを「この時代にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むように」励ましています。(テトス 2:12-13) ペテロも彼の2通目の手紙の3章で主の日について触れ、同じようなことを言っています。「このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょうか。そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。その日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。しかし、私たちは、神の約束に従って、正義の住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。」(11-13節) 正義の住む場所が訪れるための準備として、今敬虔に生きるというこの繋がりに注目しましょう。ペテロは(私たちも含む)読者に、新しい創造を待つことは、将来私たちのあるべき姿を、今生きることだと言っています。これを理解するための助けとしてこんな話をしましょう。

エリザベス二世の前は、ビクトリア女王がイギリスで最も長い期間在位した君主でした。彼女は力強い大英帝国を63年間治めました。在位期間が長かった理由の一つは、即位時の年齢が18歳だったことです。その他の王家の人の健康状態や年齢を考えると、彼女が若くして王位に就くだろうことは、彼女がまだ幼い頃からすでに明白でした。しかし、そのことはビクトリアが10歳になるまで彼女に告げないように決められました。そして、10歳になってからも、直接は伝えられず、ビクトリアは歴史の授業の中で自分で発見することになります。ある時ビクトリアは、教科書の一ページがそれまでは切り取られていたのに、そのページが戻されていたことに気付きました。そのページにはイギリスの王位継承者の系図が載っていました。家庭教師によると、ビクトリアは今までそのページを見たことがなかったことに驚き、自分が次の王位継承者であることにさらに驚いたそうです。そして家庭教師が、ビクトリアは将来巨大な大英帝国の女王になるのだと伝えると、彼女は何度も「私いい子になります。」と言ったそうです。10歳の少女にしては驚くべき発言です。将来自分が高い位に就くことを知ったビクトリアは、その日からそれに見合う生き方をすることを決意しました。これこそが、新約聖書の語るクリスチャンの生き方です。キリストにある私たちの立場ゆえ、また将来の希望を待ち望むからこそ、私たちは今それに見合う振る舞いをするのです。私たちの希望が、敬虔に神様に従う生き方へと私たちを駆り立てます。私たちが今敬虔に生きるのは、正義が君臨する新しい地での生活を待ち望んでいるからです。

私たちが今敬虔に生きるように努めるのは、新しい創造で居場所を得るためではなく、すでに恵みのうちにその居場所をいただいているからです。これは、使徒ヨハネが1ヨハネ3章で語っています。新しい創造において、私たちはキリストに似た者になります。キリストが清くあられるように、私たちも清くなります。もはや罪の性質からくる熱望の奴隷ではありません。パウロが1コリント15章で言うように、「御霊に属するからだ」すなわち神様ご自身の御霊によって完全に力を与えられた姿によみがえらさ

れます。イエス様が清くあられるように私たちも清くなるのだから、今自分を清くしなさいとヨハネは言っているのです。私たちが将来ある姿を今生きるのです。ビクトリア女王が「私いい子になります。」と言ったように。

4. イエス様を知る

最後に、この二つのたとえ話の人間関係に注目しましょう。花婿が「確かなところ、私はあなたがたを知りません。」(マタイ 25:12)と言ったので、愚かな娘たちは祝宴に入れてもらえませんでした。同様に、悪いなまけ者のしもべも、主人のやり方を知っていると仰いましたが(マタイ 25:24)、彼の行動は、本当は主人を全く知らなかったという事実を明らかにしています。(25 節) 賢く待たなかった人は、誰を待っていたのかをよく知らなかった人たちです。

このことから、イエス様の再臨と新しい創造の到来を待つ私たちの準備について何が言えるでしょうか。あなたの主であるイエス・キリストのために、あなたは実りある生き方をしていますか。キリストにある兄弟姉妹をケアすることに熱心に努めていますか。新しい創造、正義の住む場所での生活を見据えて、今清く敬虔に生きていますか。もしそうでないなら、本当に心配なのは、あなたとイエス様との関係です。この時代の終わりが来たとき、あなたの家、車、キャリア、学歴、賞の数々、スポーツの功績、家具、電気機器、その他の所有物は全て音をたてて消えます。私たちに残されるのはイエス・キリストとの関係だけです。

「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさ」に比べれば、その他の全ては損であり、ちりあくたであるとパウロは証しています。(ピリピ 3:8) イエス・キリストにある神様の恵みを知らないのなら、清く敬虔な生き方ができるとは考えられません。パウロはこれをテトスに宛てた手紙ではっきり書いています。イエス・キリストにある神様の恵みが、「不敬虔とこの世の欲を捨て、この時代にあつて、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むように教えさとし」ます。(テトス 2:12-13) イエス・キリストにある神様の恵みが、私たちにイエス様の主権のもと、クリスチャンの希望の光の中で生きるように促し、またそうさせてくださいます。イエス・キリストにある神様の恵みを知らないなら、あなたはイエス様を本当は知っておらず、イエス様との繋がりを持っていません。イエス様との関係こそが福音の核心であり、キリスト信仰の中心です。もし、あなたがそうなら、私は切に願います。イエス様の真理と恵みのうちに、イエス様を求め、あなたの救い主、また主として信仰によりイエス様を受け入れてください。

もし、私たちの主キリスト・イエスを知っているなら、イエス様こそが私たちの変わらない確信、喜びであられ、私たちの礼拝の中心、感謝の中心、愛の中心、希望の中心におられるお方です。それゆえ、私たちはイエス様の再臨を待ちわび、イエス様の暖かい歓迎の言葉を期待しつつ、私たちは正しく待ちます。「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたの本当の居場所へ迎え入れよう。」

アーメン